

NPO法人 わかば & 町議会

町の学童保育クラブの運営をされているNPO法人わかばの皆さまにお集まりいただきお話を伺いました。

子供たちと過ごせる
楽しくて刺激的なお仕事です

Q この仕事に就いたきっかけは？

「町の事務に登録した時に「学童はどうですか？」と紹介された。
「始め、図書館に勤めていたんですが、その後、夏休みの臨時支援員、定員を2割増しで預かるときの支援員、障がい児担当などを務めていたら常勤の空きができて...」
「私も、町の事務をやっていた時に紹介されて。子供にかかわる仕事をしたことは無かったけれど、経験するにはいいチャンスと思って。」

Q NPO法人を立ち上げたきっかけは？

「平成23年に町からNPO法人化してはとの話があった。それがきっかけになって、ネットで調べたり、ボランティアセンターで聞いたり、相談したりしました。でも、その後、町から具体的な話もなく、それっきりになってたんですが、26年に再度声がかかって。それから、定款がどうの、役員が何人...なんて話が進み、一緒にやろうとメンバーが揃ったので、27年2月16日に設立の認証が下りたんです。その2か月後の4月にスタートしました。」



(左から) 加瀬 知美さん 松尾 洋子さん 飯田 祐子さん (瑞穂第三小学童保育クラブにて)

「子供の成長に携われること。卒業してからも見かけたら「先生!!」って声をかけられることもあって、とてもうれしいですね。」
「当時、手のかかった子ほどよく覚えてくれるよね。」
「現場だけでなく、運営にかかわったり、各関係機関とのつながりができたりと、視野が広がったと思います。」
「支援員を集めるのが大変ですね。フルに働ける方ばかりではないので、シフトやローテーションで工夫したり。」
「手をかけてあげたいお子さんも多いんですが、手が足りないっていうか...」
「以前より町に現場の声を伝えやすくなりました。でも、まだまだ、言いたいことはいっぱい(苦笑)。」

Q 今後、さらに、どんなことがしたいですか？

「地域の子供たちともかかわれることがしたいですね。お祭りに参加したり...」
「放課後デイサービスみたいな場もできたらいいなと思っています。」
「待機児童を無くしたいです。夏休みだけ預かる「サマー学童」を昨年スタートしましたが、これも現場や保護者の声を聞いて始めたんです。」

Q 子供のこの夢は何でしたか？

「漫画家。子供たちとお絵かきすることも多いんですが、結構、尊敬されています。ピアノの先生。実は先生として教えてたりもしたんです。」

した。

Q どんな活動をしていますか？

「児童の入所決定は町が行うんですが、それ以外の学童保育クラブの運営はすべて行います。」
「支援員の配置やシフト、備品などの管理など全般ですね。」
「子供たちの様子をしっかりと見てもらうことを支援員さんをお願いしています。小学校や「子ども家庭支援センターひばり」など関係機関とも連携しています。」
Q 活動していてよかった事や大変だと思ふことは？

「デザイナー。今は、仕事がいやいやいよう部屋のレイアウトなどに生かしています。」

Q 皆さんが着ている上着のマークは？

「「まめ」って呼んでるんですが、芽が出てるでしょ。「わかば」です。」
「メンバーの人に原案を考えてもらって、知り合いの方にマスコットキャラクターに仕上げてもらいました。」

Q どんな瑞穂町にしたいですか？

「瑞穂町には多摩のダイバーシティを目指してほしい。」
「瑞穂町ってすごいね」って言われるくらい、時代の一步も二歩も先行く誇れる町。」
「子供が楽しく安心していられる空間のある町。」

Q PRをお願いします。

「支援員を大募集中です。」
「子供たちと過ごせる、楽しくて刺激のお仕事です。」

Q 議会や「ギカイのひろば」に一言。

「議員さんて遠い存在だと思ってました。話を聞いてもらえてうれしかった。」
「「ギカイのひろば」はいつも読んでます。事務所にも配布されるので、写真とかがあっけ見やすいですね。」

「参加してくださったNPO法人わかばの皆さん、ご協力ありがとうございました。」

